

令和6年度

7期生

2年次授業シラバス

しらかわ介護福祉専門学校

目次

領域：人間と社会

人間関係論Ⅰ	2
人間関係論Ⅱ	3
社会の理解	4
心理学	6
地域福祉論	7
レクリエーション概論	8
情報処理の応用	9

領域：介護

生活支援技術Ⅰ	10
生活支援技術Ⅱ	11
生活支援技術Ⅲ	12
レクリエーション実技Ⅰ	14
レクリエーション実技Ⅱ	15
介護過程Ⅱ	16
介護過程Ⅲ	18
介護総合演習Ⅰ	19
介護総合演習Ⅱ	20
介護実習Ⅰ	21
介護実習Ⅱ	22

領域：こころとからだのしくみ

こころとからだのしくみⅡ	23
リハビリテーションⅠ	24
リハビリテーションⅡ	25

領域：医療的ケア

医療的ケアの基礎と理解	26
喀痰吸引・経管栄養の演習	29

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
人間関係論 I	30	1	2年前期	講義	宮尾 直木 介護支援専門員として居宅支援事業所に16年勤務
【授業の概要】					
相談援助職者として必要な人間の尊厳や権利擁護、対人援助関係における基本的態度や原則についてなどを学び、チームマネジメント、チームケアの字戦力向上を目指し、基礎的コミュニケーション能力を養うための学習とする。					
【到達目標】					
①自分や他者を理解することができる。 ②介護を必要とする人及びチームで働くうえでのコミュニケーションについて理解することができる。 ③チームマネジメントの全体像を理解し、協働のあり方や組織の構造と役割について理解することができる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座1 第2版「人間の理解」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	人間と人間関係	人間関係形成のために必要なこと「ジョハリの窓」			宮尾
2	人間と人間関係	発達心理学・社会心理学からみた人間関係			宮尾
3	人間と人間関係	心理学からみた人間関係			宮尾
4	人間と人間関係	集団の人間関係・人間関係とストレス			宮尾
5	対人関係における コミュニケーション	バイステティックの7つの原則			宮尾
6	組織における コミュニケーション	組織におけるコミュニケーション「トップダウン・ボトムアップ」			宮尾
7	組織における コミュニケーション	組織において求められるコミュニケーション・ブレインストーミング			宮尾
8	組織における コミュニケーション	組織において求められるコミュニケーション・ブレインストーミング			宮尾
9	対人援助関係と コミュニケーション	対人関係におけるコミュニケーション 言語・非言語コミュニケーション			宮尾
10	対人援助関係と コミュニケーション	人間関係の発展とコミュニケーション			宮尾
11	組織における コミュニケーション	理解する、受け止める、伝える、引き出す力			宮尾
12	組織における コミュニケーション	演習			宮尾
13	組織における コミュニケーション	演習			宮尾
14	対人関係における コミュニケーション	まとめ			宮尾
15	まとめ	単位認定試験			宮尾
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠・授業態度・筆記試験・レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
人間関係論Ⅱ	30	1	2年後期	講義・演習	宮尾 直木 介護支援専門員として居宅支援事業所に16年勤務

【授業の概要】

相談援助職者として必要な人間の尊厳や権利擁護、対人援助関係における基本的態度や原則について等々学びチームマネジメント、チームケアの実践力の向上を目指し、基礎的コミュニケーション能力を養うための学習とする。

【到達目標】

- ①介護サービスの特性を理解し、チームマネジメントの全体像が理解できる。
- ②協働のあり方やチームの力を最大限に発揮するための取り組みについて理解できる。
- ③チームの実践力の向上に向けた人材育成、自己研鑽について理解できる。
- ④組織の構造と機能や役割について学び、自分も組織の一員として関わっていることを理解する。

【テキスト・参考書】

最新 介護福祉士養成講座1 第2版「人間の理解」(中央法規出版)
配布資料

【授業計画】

回数	テーマ	具体的内容
1	介護実践におけるチームマネジメント	ヒューマンサービスとしての介護サービス
2	介護実践におけるチームマネジメント	介護現場で求められるチームマネジメント
3	介護実践におけるチームマネジメント	介護現場で求められるチームマネジメント
4	ケアを展開するためのチームマネジメント	ケアを展開するためのチームマネジメント
5	ケアを展開するためのチームマネジメント	ケアを展開するためのチームマネジメント
6	ケアを展開するためのチームマネジメント	ケアを展開するためのチームマネジメント
7	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	介護福祉職のキャリアと求められる実践力
8	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	キャリア支援
9	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	自己研鑽
10	組織の目標達成のためのチームマネジメント	介護サービスを支える組織構造
11	組織の目標達成のためのチームマネジメント	組織の機能と役割
12	組織の目標達成のためのチームマネジメント	組織の管理
13	組織の目標達成のためのチームマネジメント	組織の目標達成のためのチームマネジメント
14	介護実践におけるチームマネジメント	まとめ
15	単位認定試験	試験・まとめ

【評価方法】

授業出席・授業態度・試験・レポートによる評価

【その他】演習時は、マスクを着用すること 3

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
社会の理解	60	2	2年前期	講義・演習	菅原俊博 (生活指導員として20年)

【授業の概要】

地域社会における生活とその支援及び社会保障制度・施策の基礎的な知識を学び、「社会的関係性のなかで対象者を理解する力」を育むことを目的とする学習。

【到達目標】

- ①人を理解するために、その人の生活背景を理解し、社会の仕組みについて理解を深める。
- ②社会を構成する様々な制度やサービスについて理解を深める。
- ③福祉サービスや制度を活用することによって実現する生活について理解を深める。
- ④自己実現に向けた生活支援や福祉社会の動静について理解を深める。

【テキスト・参考書】

最新・介護福祉士養成講座2 第2版「社会の理解」(中央法規出版)
 社会保障入門編集委員会「社会保障入門2023」(中央法規出版)配布資料

【授業計画】

回数	テーマ	具体的内容
1	社会と生活のしくみ	生活の基本機能、社会生活のメカニズム
2	社会と生活のしくみ	家族の役割、家庭生活の機能
3	社会と生活のしくみ	ライフスタイル、少子高齢化と健康寿命
4	社会と生活のしくみ	社会・組織の機能と役割
5	社会と生活のしくみ	生活支援と福祉、自助・互助・共助・公助
6	地域共生社会の実現に向けた制度や施策	共生型システム、コミュニティ・ソーシャルワーク
7	社会保障制度	社会保障の意義と役割
8	社会保障制度	社会保障の基盤整備
9	社会保障制度	社会保険と社会扶助①
10	社会保障制度	社会保険と社会扶助②
11	社会保障制度	社会保険と社会扶助③
12	高齢者保健福祉と介護保険制度	高齢者保健福祉の歴史と法体系
13	高齢者保健福祉と介護保険制度	介護問題と高齢者保健福祉
14	高齢者保健福祉と介護保険制度	高齢者の社会参加と今日的課題
15	単位認定試験	試験・まとめ

【評価方法】

試験結果、授業態度、出席状況、レポート等により評価。

【その他】パワーポイントを用いての講義

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
社会の理解	60	2	2年後期	講義・演習	菅原俊博 (生活指導員として20年)

【授業の概要】

地域社会における生活とその支援及び社会保障制度・施策の基礎的な知識を学び、「社会的関係性のなかで対象者を理解する力」を育むことを目的とする学習

【到達目標】

- ①人を理解するために、その人の生活背景を理解し、社会の仕組みについて理解を深める
- ②社会を構成する様々な制度やサービスについて理解を深める
- ③福祉サービスや制度を活用することによって実現する生活について理解を深める
- ④自己実現に向けた生活支援や福祉社会の動静について理解を深める

【テキスト・参考書】

最新介護福祉士養成講座2 第2版「社会の理解」(中央法規出版)
 社会保障入門編集委員会 「社会保障入門2023」(中央法規出版) 配布資料

【授業計画】

回数	テーマ	具体的内容
16	介護保険制度	介護保険制度創設の背景と目的
17	介護保険制度	介護保険制度の基本的理解①
18	介護保険制度	介護保険制度の基本的理解②
19	介護保険制度	介護保険サービスの種類と内容①
20	介護保険制度	介護保険サービスの種類と内容②
21	地域包括ケアシステム	地域包括ケアの理念と共生型サービス
22	ケアマネジメント	ケアマネジメントのシステムとプロセス①
23	ケアマネジメント	ケアマネジメントのシステムとプロセス②
24	障害者総合支援制度	障害者保健福祉の現状と動向
25	障害者総合支援制度	障害者保健福祉に関する制度
26	障害者総合支援制度	障害者総合支援制度の給付と事業
27	介護実践に関連する諸制度	生活を守る諸制度①
28	介護実践に関連する諸制度	生活を守る諸制度②
29	介護実践に関連する諸制度	生活を守る諸制度③
30	単位認定試験	試験・まとめ

【評価方法】

試験結果、授業態度、出席状況、レポート等により評価

【その他】パワーポイントを用いて講義

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
心理学	30	1	2年前期	講義・演習	白井 志之夫 (臨床心理士として医療機関に40年勤務)
【授業の概要】					
自己と他者を理解するための基礎知識として、こころの発達と働きについて知る。					
【到達目標】					
人と関係を築く際に、心の領域に目を向ける姿勢を養うことができる					
【テキスト・参考書】					
心理学入門 心理学はこんなに面白い 改訂版(2019) (有斐閣)					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
1	心理学とは	授業の概要説明			
2	心理学の歴史	こころはどう探求されてきたか			
3	身近に感じる心理学	心理に関する支援			
4	身近に感じる心理学	性格と個人差			
5	身近に感じる心理学	動機づけについて			
6	身近に感じる心理学	円滑なコミュニケーションに向けて			
7	心理学で日常生活を読み解く	身近な人や社会との関係			
8	心理学で日常生活を読み解く	発達心理 乳幼児から青年まで			
9	心理学で日常生活を読み解く	発達心理 青年期・成人期の発達			
10	心理学で日常生活を読み解く	心を測る 心理的アセスメント			
11	心理学で日常生活を読み解く	ストレスとその影響 ストレスへの対処に向けて			
12	心理学で日常生活を読み解く	こころの病、障害について			
13	心理学で日常生活を読み解く	知覚・認知・記憶			
14	心理学で日常生活を読み解く	あなたはどのように行動するのか			
15	まとめ	単位認定試験・解説・まとめ			
【評価方法】					
授業出欠、授業態度、試験、レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
地域福祉論	30	1	2年前期	講義・演習	本柳瑞恵 (介護職員として介護施設に19年勤務)
【授業の概要】					
地域福祉の実践は住民を中心に専門職や行政が協働し、誰もがその人らしく暮らせる地域とその仕組みを作りあげていく実践といえる。現在の福祉ニーズは何か。それに対しどのように生活者として関わっているのか。今後どのような対応が求められるのかを活動の見学や参加を通して肌で感じる事で学びを深める。					
【到達目標】					
①地域福祉の仕組みや実際を知る。 ②地域福祉の主体について理解する。 ③地域福祉活動の実際について内容をまとめ発表できる。					
【テキスト・参考書】					
配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
1	地域福祉を知る	地域とはなにかを知る			
2	地域福祉を知る	地域と福祉の関わり・現状について知る			
3	地域福祉を知る	地域福祉の活動を知る①(地域包括ケアシステムの調べ学習)			
4	地域福祉を知る	地域福祉の活動を知る②(計画)			
5	地域福祉を知る	地域福祉の活動を知る③(インタビュー)			
6	地域福祉を知る	地域福祉の活動を知る④(インタビュー)			
7	地域福祉を知る	地域福祉活動を知る①(おひさまクラブ・認知症カフェ)			
8	地域福祉活動に参加する	地域福祉活動に参加する(おひさまクラブ参加)			
9	地域福祉活動に参加する	地域福祉活動に参加する(おひさまクラブ参加) レポート提出			
10	地域福祉を知る	地域福祉の活動を知る⑤(資料作成)			
11	地域福祉を知る	地域福祉の活動を知る⑤(資料作成)			
12	地域福祉活動に参加する	地域福祉活動に参加する(認知症カフェ)			
13	地域福祉活動に参加する	地域福祉活動に参加する(認知症カフェ) レポート提出			
14	地域の現状を知る	地域福祉の活動を知る⑤(資料作成)			
15	地域の現状を知る	地域福祉活動の報告会			
【評価方法】					
課題提出物、報告内容、授業態度による評価。					
【その他】 インタビューにおける移動は各自となります。					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
レクリエーション概論	30	1	2年前期	講義・演習	佐藤喜也 (福島県レクリエーション協会に14年)
【授業の概要】					
介護や医療の現場で、より良い生活と人生を迫及するために欠くことのできないレクリエーションに関わる諸活動を実践するために必要とされる人間や集団の理解、自主的・主体的な取り組みを促す動機づけ、他者とのコミュニケーションのあり方等について、その基礎となる理論を学ぶ。					
【到達目標】					
遊び・レジャー・レクリエーションの我が国における現代的な意義と、Therapeutic Recreation Serviceの基本的な考え方、社会福祉領域におけるレクリエーション援助について修得する。					
【テキスト・参考書】					
レクリエーション・インストラクター養成テキスト「楽しさをとおした心の元気づくり」 (公益財団法人日本レクリエーション協会発行)					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
1	楽しさと心の元気づくりの理論 1	レクリエーションの主旨 楽しさをとおした元気づくり			
2	良好な集団づくりの理論と実際 1	レクリエーションの二つの楽しさ 良好な集団づくりとレクリエーション			
3	良好な集団づくりの理論と実際 2	集団内のコミュニケーションの促進 アイスブレイキングについて			
4	良好な集団づくりの理論と実際 3	アイスブレイキングの技術 アイスブレイキングモデル			
5	楽しさと心の元気づくりの理論 2	ライフステージとレクリエーション			
6	自主的、主体的に 楽しむ力を育む理論 1	レクリエーション支援の全体像 ハードル設定とアレンジ			
7	自主的、主体的に 楽しむ力を育む理論 2	レクリエーション支援の全体像 成功体験に基づく自己効力感			
8	自主的、主体的に 楽しむ力を育む理論 3	自己効力感を高める支援方法 CSSプロセスを支える理論			
9	コミュニケーションと 信頼関係づくりの理論と実際 1	ホスピタリティと信頼関係づくり 支援におけるコミュニケーション			
10	コミュニケーションと 信頼関係づくりの理論と実際 2	ホスピタリティの意識と配慮 ホスピタリティのための自己開示			
11	コミュニケーションと 信頼関係づくりの理論と実際 3	ホスピタリティと交流分析 ホスピタリティとしての表現			
12	セラピューティック レクリエーションに関する理論 1	TR概論 アセスメントとA-PIEプロセス			
13	セラピューティック レクリエーションに関する理論 2	介護領域におけるモデルプログラム 活動分析の考え方			
14	リスクマネジメントの理論	リスクの予知と対応 リスクマネジメントの方法			
15	レクリエーション概論まとめ	試験・レクリエーションとは何か			
【評価方法】					
出席状況、提出物状況、授業態度、グループワークへの参加状況および参加態度、筆記試験					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
情報処理の応用	30	1	2年前期	演習	加茂 直樹 (実務経験無)
【授業の概要】					
実務で役に立つ技能の習得を目標に、基礎編より実戦的な内容を学習する。					
【到達目標】					
中央職業能力開発協会・コンピュータサービス技能評価試験（CS試験）のワープロ部門（Word）3級、表計算部門（Excel）3級の資格取得を目指す（受験は授業終了後に別途）					
【テキスト・参考書】					
よくわかる Word2016 & Excel2016 スキルアップ問題集 操作マスター編（FOM出版）					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
1	Word 文字入力練習	入力速度の目標（日本語35文字／分）、100文字、300文字、400文字の課題で練習			
2	Word 表の無い一般的な文書	段落（インデント）、横配置、箇条書き、フォント、用紙、文字数／行数、余白、段落罫線			
3	Word 表の入った一般的な文書	線引き、消去、行／列の操作、セル結合、文字配置、高さ／幅の均等調整			
4	Word 図が含まれる文書	ワードアート、文字効果、ページ罫線、画像挿入（書式設定）			
5	Word グラフィカルな文書	図形挿入（書式設定、文字挿入）、ページの背景色、テキストボックス			
6	Excel 罫線無しの入力練習と簡単な数式	セル入力、簡単な数式（計算式／SUM）、範囲選択、コピー／移動			
7	Excel 数式無しの表作成	セル書式、セル内配置、罫線、列幅／行高、連続データ入力、印刷設定、拡大／縮小印刷			
8	Excel 簡単な関数を含む数式	表示形式、セル結合、AVERAGE、MAX、MIN、NOW、TODAY、絶対参照			
9	Excel 高度な関数を含む数式	行／列の挿入、ヘッダー／フッター、COUNT、COUNTA、RANK.EQ、ROUND（端数処理）			
10	Excel グラフの挿入	印刷範囲の設定、表範囲の選択（非連続）、折れ線／棒グラフの作成、要素の追加／変更			
11	Excel データベース機能	IF、書式のコピー、ユーザー設定リスト、テーブル操作、並べ替え、抽出、作業グループ			
12	CS試験受験対策 ワープロ部門3級	ワープロ部門模擬試験の実施（試験時間・50分） ワープロ部門模擬試験の解答と解説			
13	CS試験受験対策 ワープロ部門3級／表計算部門3級	ワープロ部門模擬試験の解答と解説 表計算部門模擬試験の実施（試験時間・45分）			
14	CS試験受験対策 表計算部門3級	表計算部門模擬試験の解答と解説			
15	単位評価試験	Word／Excel 単位評価実技試験の実施			
【評価方法】					
単位評価実技試験の成績による。※ CS試験の結果は考慮しない					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
生活支援技術 I	120	4	2年後期	演習	本柳瑞恵 (介護職員として介護施設に19年勤務)
【授業の概要】					
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守る事も含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
【到達目標】					
①家事の介護における他職種との連携・役割について理解し、その必要性について説明する事が出来る。 ②家事支援の基本となる技術を学習し、家事支援におけるアセスメントの視点や支援内容について自分の考えを述べる事が出来る。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座6 第2版「生活支援技術 I」中央法規出版 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
46	家事支援	調理実習① 和食の基本			
47	家事支援	調理実習① 和食の基本			
48	家事支援	調理実習② 糖尿病食			
49	家事支援	調理実習② 糖尿病食			
50	家事支援	調理実習③ 腎臓病食			
51	家事支援	調理実習③ 腎臓病食			
52	家事支援	行事食の計画 (クリスマス会)			
53	家事支援	調理実習④行事食 (クリスマス会)			
54	家事支援	調理実習④行事食 (クリスマス会)			
55	家事支援	裁縫実習① 制作			
56	家事支援	裁縫実習② 制作			
57	家事支援	裁縫実習③ 制作			
58	家事支援	裁縫実習④ 制作			
59	家事支援	裁縫実習⑤ 制作			
60	家事支援	裁縫実習⑥ 制作			
【評価方法】					
提出物・授業の出欠・授業態度による評価					
【その他】 エプロン・三角巾等必要なものについては持参すること					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
生活支援技術Ⅱ	120	4	2年前期	講義・演習	本柳瑞恵 (介護職員として介護施設に19年勤務)
【授業の概要】					
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
【到達目標】					
①自立に向けた生活行為とは何かを理解できる。 ②自立に向けた身体介護技術の基本を実践できる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座7 第2版「生活支援技術Ⅱ」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
46	自立生活に向けた生活支援	授業の流れ 今後の流れ			
47	自立生活に向けた生活支援	手浴・足浴の介助			
48	自立生活に向けた生活支援	手浴・足浴の介助			
49	自立生活に向けた生活支援	入浴の実際① 洗髪(女性) 入浴(男性)			
50	自立生活に向けた生活支援	入浴の実際② 洗髪(女性) 入浴(男性)			
51	自立生活に向けた生活支援	入浴の実際③ 洗髪(男性) 入浴(女性)			
52	自立生活に向けた生活支援	入浴の実際④ 洗髪(男性) 入浴(女性)			
53	自立生活に向けた生活支援	これまでの介護技術と事例実施①			
54	自立生活に向けた生活支援	これまでの介護技術と事例実施②			
55	自立生活に向けた生活支援	これまでの介護技術と事例実施③			
56	自立生活に向けた生活支援	これまでの介護技術と事例実施④			
57	自立生活に向けた生活支援	これまでの介護技術と事例実施⑤			
58	自立生活に向けた生活支援	介護事例練習			
59	自立生活に向けた生活支援	介護事例練習			
60	自立生活に向けた生活支援	単位認定試験 実技試験(事例内容いずれか一つ)			
【評価方法】					
授業態度・出席・提出物による評価					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
生活支援技術Ⅲ	60	2	2年前期	講義	合田 泰典 (介護職員として介護施設に13年勤務)
【授業の概要】					
<p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p>					
【到達目標】					
<p>①障害の特性の基本を理解できる。 ②障害の特性に応じた自立支援の基本を理解できる。</p>					
【テキスト・参考書】					
<p>最新・介護福祉士養成講座8 「生活支援技術Ⅲ」(中央法規出版) 児童福祉法の障害児サービスを半分使う。(見て覚える社会福祉士国試ナビ p 110-123)</p>					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
1	障害に応じた生活支援技術Ⅰ	肢体不自由に応じた介護①			
2	障害に応じた生活支援技術Ⅰ	肢体不自由に応じた介護②			
3	障害に応じた生活支援技術Ⅰ	肢体不自由に応じた介護③			
4	障害に応じた生活支援技術Ⅰ	肢体不自由に応じた介護④			
5	障害に応じた生活支援技術Ⅱ	知的障害に応じた介護①			
6	障害に応じた生活支援技術Ⅱ	知的障害に応じた介護②			
7	障害に応じた生活支援技術Ⅱ	精神障害者に応じた介護①			
8	障害に応じた生活支援技術Ⅱ	精神障害者に応じた介護②			
9	障害に応じた生活支援技術Ⅱ	高次脳機能障害に応じた介護			
10	障害に応じた生活支援技術Ⅱ	発達障害に応じた介護			
11	障害に応じた生活支援技術Ⅱ	筋委縮性側索硬化症に応じた介護			
12	障害に応じた生活支援技術Ⅱ	パーキンソン病に応じた介護			
13	障害に応じた生活支援技術Ⅱ	悪性関節リウマチに応じた介護			
14	障害に応じた生活支援技術Ⅱ	筋ジストロフィーに応じた介護			
15	単位認定試験・まとめ	試験・まとめ			
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠・授業態度・試験・レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
生活支援技術Ⅲ	60	2	2年後期	講義・演習	合田 泰典 (介護職員として介護施設に13年勤務)
【授業の概要】					
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
【到達目標】					
①障害の特性の基本を理解できる。 ②障害の特性に応じた自立支援の基本を理解できる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座8 第2版「生活支援技術Ⅲ」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
16	障害に応じた生活支援技術	心臓機能障害・呼吸器障害に応じた介護			
17	障害に応じた生活支援技術	視覚障害者に応じた介護・重複障害に応じた介護			
18	障害に応じた生活支援技術	視覚障害者に応じた介護(演習)			
19	障害に応じた生活支援技術	肝臓機能・腎臓機能障害に応じた介護			
20	障害に応じた生活支援技術	膀胱・直腸・小腸機能障害に応じた介護①			
21	障害に応じた生活支援技術	膀胱・直腸・小腸機能障害に応じた介護②			
22	障害に応じた生活支援技術	ストマー・留置カテーテルの支援技術(演習)			
23	障害に応じた生活支援技術	聴覚障害者に応じた介護(手話講座)①			
24	障害に応じた生活支援技術	聴覚障害者に応じた介護(手話講座)②			
25	障害に応じた生活支援技術	HIVによる免疫機能障害・重症心身障害に応じた介護			
26	障害に応じた生活支援技術	前・後期の振り返り			
27	障害に応じた生活支援技術	終末期のケア①			
28	障害に応じた生活支援技術	終末期のケア②			
29	障害に応じた生活支援技術	エンゼルケア(演習)			
30	単位認定試験	試験・まとめ			
【評価方法】					
授業態度・試験・レポートによる評価。					
【その他】 手話講座は外部講師となります。					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
レクリエーション実技 I	30	1	2年前期	講義・演習	佐藤喜也 (福島県レクリエーション協会に14年)
【授業の概要】					
介護や医療の現場で、より良い生活と人生を迫及するために欠くことのできないレクリエーションに関わる諸活動を実践するために必要とされる人間や集団の理解、自主的・主体的な取り組みを促す動機づけ、他者とのコミュニケーションのあり方等について、その基礎となる支援技術の基礎を学ぶ。					
【到達目標】					
人の尊厳を守るという観点から、本人の自立・自律を尊重し、見守りを含め、レクリエーション主体である介護サービス利用者の潜在能力を引き出すことのできるレクリエーション支援の方法を身につける。					
【テキスト・参考書】					
レクリエーション・インストラクター養成テキスト「楽しさをとおした心の元気づくり」 (公益財団法人日本レクリエーション協会発行)					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
1	レクリエーション支援の実際 1	アイスブレイキングに学ぶ 基礎的支援技術 1			
2	レクリエーション支援の実際 2	アイスブレイキングに学ぶ 基礎的支援技術 2			
3	レクリエーション活動の習得 1	介護福祉領域における モデルプログラムの体験 1			
4	レクリエーション活動の習得 2	介護福祉領域における モデルプログラムの体験 2			
5	レクリエーション活動の習得 3	レクリエーション活動における 基礎実技の習得 1			
6	レクリエーション活動の習得 4	レクリエーション活動における 基礎実技の習得 2			
7	レクリエーション活動の習得 5	レクリエーション活動における 基礎実技の習得 3			
8	レクリエーション活動の習得 6	レクリエーション活動における 基礎実技の習得 4			
9	レクリエーション活動の習得 7	レクリエーション活動における 基礎実技の習得 5			
10	レクリエーション活動の習得 8	レクリエーション活動における 基礎実技の習得 6			
11	レクリエーション活動の習得 9	レクリエーション活動における 基礎実技の習得 7			
12	レクリエーション活動の習得 10	レクリエーション活動における 基礎実技の習得 8			
13	人間関係とホスピタリティ1	ホスピタリティトレーニング 1			
14	人間関係とホスピタリティ2	ホスピタリティトレーニング 2			
15	人間関係とホスピタリティ3	ホスピタリティトレーニング 3			
【評価方法】					
出席状況、提出物状況、授業態度、グループワークへの参加状況および参加態度、筆記試験					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
レクリエーション実技Ⅱ	30	1	2年後期	講義・演習	佐藤喜也 (福島県レクリエーション協会に14年)
【授業の概要】					
介護や医療の現場で、より良い生活と人生を迫及するために欠くことのできないレクリエーションに関わる諸活動を実践するために必要とされる人間や集団の理解、自主的・主体的な取り組みを促す動機づけ、他者とのコミュニケーションのあり方等について学ぶ。					
【到達目標】					
人の尊厳を守るという観点から、本人の自立・自律を尊重し、見守りを含め、レクリエーション主体である介護サービス利用者の潜在能力を引き出すことのできるレクリエーション支援の方法を身につける。					
【テキスト・参考書】					
レクリエーション・インストラクター養成テキスト「楽しさをとoshした心の元気づくり」 (公益財団法人日本レクリエーション協会発行)					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
1	レクリエーション支援の実際 3	成功体験を積み重ねるハードル設定1			
2	レクリエーション支援の実際 4	成功体験を積み重ねるハードル設定2			
3	レクリエーション支援の実際 5	成功体験を積み重ねるハードル設定3			
4	レクリエーション支援の実際 6	成功体験を積み重ねるためのアレンジ1			
5	レクリエーション支援の実際 7	成功体験を積み重ねるためのアレンジ2			
6	レクリエーション支援の実際 8	CSSプロセスとコミュニケーション			
7	レクリエーション支援演習 1	レクリエーション支援技術の一体的活用 1			
8	レクリエーション支援演習 2	レクリエーション支援技術の一体的活用 2			
9	レクリエーション支援演習 3	レクリエーション活動展開案の作成 1			
10	レクリエーション支援演習 4	レクリエーション活動展開案の作成 2			
11	レクリエーション支援演習 5	レクリエーションプログラム展開案の作成 1			
12	レクリエーション支援演習 6	レクリエーションプログラム展開案の作成 2			
13	レクリエーション支援演習 7	プログラム展開案の実施と評価 1			
14	レクリエーション支援演習 8	プログラム展開案の実施と評価 2			
15	レクリエーション支援演習 9	プログラム展開案の実施と評価 3			
【評価方法】					
出席状況、提出物状況、授業態度、グループワークへの参加状況および参加態度、プログラム展開案の作成・実施における評価、筆記試験					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
介護過程Ⅱ	60	2	2年 前・後期	講義・演習	本柳 瑞恵 (介護職員として介護施設に19年勤務)
【授業の概要】					
他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。					
【到達目標】					
①個別ケアの提供における介護計画の意義を理解することができる。 ②利用者の望む生活に向けて介護計画（個別援助計画）を立案することができる。 ③チームアプローチにおける介護福祉士の役割を説明することができる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座9 第2版「介護過程」（中央法規出版） 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
1	ガイダンス	介護実習Ⅱまでの授業の流れ 学ぶべき事			
2	介護過程の理解	アセスメントの復習①			
3	介護過程の理解	アセスメントの復習②			
4	介護過程の理解	アセスメントの復習③			
5	介護過程の理解	アセスメントの復習④			
6	介護過程の理解	介護計画とは 介護目標の設定と方法			
7	介護過程の理解	介護目標の設定の方法			
8	介護過程の理解	目標と優先順位			
9	介護過程の理解	具体的な支援内容・支援方法の決定			
10	介護過程の理解	具体的な支援内容・支援方法の決定			
11	介護過程の理解	介護の実施・記録			
12	介護過程の理解	介護の実施・記録			
13	介護過程の理解	介護の実施・記録			
14	介護過程の理解	評価			
15	まとめ	単位認定試験・解説			
【評価方法】					
筆記試験・授業態度・課題提出・出席状況による総合評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
介護過程Ⅱ	60	2	2年 前・後期	講義・演習	本柳 瑞恵 (介護職員として介護施設に19年勤務)
【授業の概要】					
他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。					
【到達目標】					
①個別ケアの提供における介護計画の意義を理解することができる。 ②利用者の望む生活に向けて介護計画（個別援助計画）を立案することができる。 ③チームアプローチにおける介護福祉士の役割を説明することができる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座9 第2版「介護過程」（中央法規出版） 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
16	介護過程とケアマネジメント	介護過程とケアマネジメントの関係性			
17	介護過程とケアマネジメント	チームアプローチにおける介護福祉士の役割			
18	介護過程の実践的展開	介護過程展開の実際①			
19	介護過程の実践的展開	介護過程展開の実際②			
20	介護過程の実践的展開	介護過程展開の実際③			
21	介護過程の実践的展開	介護過程展開の実際④			
22	介護過程の実践的展開	介護過程展開の実際⑤			
23	介護過程の実践的展開	介護過程展開の実際⑥			
24	介護過程の実践的展開	介護過程展開の実際⑦			
25	介護過程の実践的展開	介護過程展開の実際⑧			
26	介護過程の実践的展開	実習に向けて			
27	介護過程の実践的展開	実習の振り返り			
28	介護過程の実践的展開	実習の振り返り			
29	介護過程の実践的展開	報告会に向けての説明・まとめ			
30	まとめ	単位認定試験・解説			
【評価方法】					
筆記試験・授業態度・課題提出・出席状況による総合評価					
【その他】 夏休みに登校があります（時間割による）					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
介護過程Ⅲ	30	1	2年後期	講義・演習	本柳瑞恵 (介護職員として介護施設に19年勤務)
【授業の概要】					
他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。					
【到達目標】					
①実習Ⅱでの経験について事例を整理し、発表することができる ②事例を整理することで個別ケアの重要性、介護福祉士の役割について説明することができる					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座9 第2版「介護過程」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
1	介護過程の実践的理解	利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開 事例研究・発表①			
2	介護過程の実践的理解	利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開 事例研究・発表②			
3	介護過程の実践的理解	利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開 事例研究・発表③			
4	介護過程の実践的理解	利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開 事例研究・発表④			
5	介護過程の実践的理解	利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開 事例研究・発表⑤			
6	介護過程の実践的理解	利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開 事例研究・発表⑥			
7	介護過程の実践的理解	利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開 事例研究・発表⑦			
8	介護過程の実践的理解	利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開 事例研究・発表⑧			
9	介護過程の実践的理解	利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開 事例研究・発表⑨			
10	介護過程の実践的理解	利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開 事例研究・発表⑩			
11	介護過程の実践的理解	利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開 事例研究・発表⑪			
12	介護過程の実践的理解	利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開 事例研究・発表⑫			
13	介護過程の実践的理解	利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開 事例研究・発表⑬			
14	介護過程の実践的理解	利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開 事例研究・発表⑭			
15	介護過程の実践的理解	利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開 事例研究・発表⑮			
【評価方法】					
報告書作成時の評価(評価表に準ずる・授業態度)により評価する					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
介護総合演習 I	60	2	2年前期	講義・演習	本柳 瑞恵 (介護職員として介護施設に19年勤務)
【授業の概要】					
<p>実習の教育効果を上げるため、実習前の介護技術の確認や施設などのオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に生徒が養成施設などにおいて学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開能力などについて個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。</p>					
【到達目標】					
<p>①実習施設の意義と役割を自分の言葉で説明できる。 ②実習での一連の課題と流れについて理解している。</p>					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座10 第2版「介護総合演習・実習」第2版（中央法規出版） 実習の手引き					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
21	実習の目的と実習内容	ガイダンス(実習 I -1 障害者施設) 実習ファイル配布・個人票作成			
22	実習 I -1段階 障害施設実習の展開	事前学習			
23	実習 I -1段階 障害施設実習の展開	実習計画書の作成 実習目標の設定			
24	実習 II の目的と実習内容	ガイダンス・ 実習ファイル配布・実習 II の内容説明			
25	実習 II の展開	個人票作成			
26	実習 II の展開	実習先事前学習			
27	実習 II の展開	実習計画書の作成 実習目標の設定			
28	実習 II の展開	実習計画書の作成 実習目標の設定			
29	実習 II の展開	実習計画書の作成 実習先への電話連絡			
30	実習 II の展開	実習前最終確認			
【評価方法】					
出席・授業態度・提出物にて総合的に評価する。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
介護総合演習Ⅱ	60	2	2年 前・後期	講義・演習	本柳 瑞恵 (介護職員として介護施設に19年勤務)
【授業の概要】					
実習の教育効果を上げるため、実習前の介護技術の確認や施設などのオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に生徒が養成施設などにおいて学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開能力などについて個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする					
【到達目標】					
①実習中に体験したことを振り返り、整理できる。 ②授業や実習を通して専門職としての介護観について理解することができる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座10 第2版「介護総合演習・実習」(中央法規出版) 実習の手引き・配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
21	実習1-1段階の評価	課題提出・お礼状作成			
22	実習1-1段階の評価	障害施設のまとめ(グループワーク)			
23	実習Ⅱの展開	帰校日			
24	実習Ⅱの展開	帰校日			
25	実習Ⅱの評価	課題提出 お礼状作成			
26	実習Ⅱの評価	実習の振り返り(ワークシート記入)			
27	実習Ⅱの評価	実習時のアクシデントについて振り返り (グループワーク)			
28	実習Ⅱの評価	実習を通して介護観のまとめ(グループワーク) 実習報告会の説明			
29	実習Ⅱの評価	実習報告会			
30	実習Ⅱの評価	実習報告会			
【評価方法】					
授業態度・提出物・実習報告会の評価					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
介護実習 I - 1 段階	24	1	2年前期	実習	本柳瑞恵 (介護職員として介護施設に19年勤務)
【授業の概要】					
<p>個々の生活リズムや個性を理解する観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員として介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>個別ケアを行うためにこの生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実習後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。</p>					
【到達目標】					
<p>①1日の流れや業務内容を知り、利用者の生活や介護職の役割を理解できる。</p> <p>②利用者や職員とのかかわりを通し、コミュニケーションの必要性や重要性が分かる。</p>					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士要請講座第10 第2版「介護総合演習・介護実習」(中央法規出版) 介護実習の手引き					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
1					
2		*実習内容の詳細については、実習の手引き、実習計画書参照			
3	実習 I については	①施設における利用者の生活の流れを知り、介護職員の業務を学ぶことを通して、施設における介護機能・役割を学ぶ。			
4		②利用者のニーズを知り、基本的な生活支援技術を学ぶことを通して、コミュニケーションの大切さを学ぶ。			
5		③実習の中で学ぶ知識、技術などが、利用者の介護過程であることを学ぶ。			
6	実習 I - 1 段階				
7	(2年次) 実習先：障害者施設 3回目：令和6年6月24日(月)～6月26日(水)				
8					
9					
【評価方法】					
実習指導者による介護実習評価表・実習態度・提出物等					
【その他】 各実習先には各自移動になります。各実習先による感染予防対策に準じて行動します。					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
介護実習Ⅱ	192	4	2年 前・後期	実習	本柳瑞恵 (介護職員として介護施設に19年勤務)
【授業の概要】					
<p>①個々の生活リズムや個性を理解する観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員として介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>②個別ケアを行うためにこの生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実習後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。</p>					
【到達目標】					
<p>①施設生活者の生活を支える介護過程の展開を体験し、個別ケア、生活支援を理解することができる。</p> <p>②福祉専門職としての事故の課題を明確化することができる。</p>					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座10 第2版「介護総合演習・介護実習」(中央法規出版) 実習の手引き					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の知識・技術の基本を活用し、利用者の状態に応じた生活支援技術を学び実践する。 ・介護福祉士としての専門性を理解し自己の課題を追求する。 <p>ねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> ①個別ケアの個別性を理解し、利用者の状態に応じた生活支援の実践について学ぶ。 ②利用者の自立支援における意義を学び支援の在り方を理解する。 ③地域における施設の役割・機能を理解し、連携の在り方について知る。 ④介護現場における介護過程の必要性や課題を理解する。 <p>期間：令和6年9月17日（火）～10月23日（水）24日間 帰校日：令和6年9月30日（月）</p> <p>介護過程レポートⅡ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1週前半 「担当利用者を一人決める」 ○第1週後半～2週目前半 「情報収集」 ○第2週目後半 「アセスメント表の作成」 ○第3週目 「介護計画立案」 ○第3週～4週目 「実施」 ○第5週目 「評価」 					
【評価方法】					
介護実習評価表による実習評価点と出席・記録・課題の総合評価。					
【その他】 各実習先には各自移動になります。各実習先による感染予防対策に準じて行動します。					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
こころとからだのしくみⅡ	30	1	2年 前・後期	講義・演習	吉田朋子 (看護師として医療機関に10年勤務)
【授業の概要】					
加齢やさまざまな疾患で生じる生活行為に対しての生活障害がどのようなメカニズムで生じるかを理解でき、観察ポイントや連携の必要性、変化に気づける知識を学習する 終末期において死にいたるまでの心身の変化を学び、人生最後の時期に関わる基本的姿勢を学ぶ					
【到達目標】					
①生活行為においてのしくみを説明できる ②生活障害が及ぼす心身への影響と変化の気づきを理解し説明できる ③終末期における心身の変化や家族を含めた支援の方法を説明できる					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉養成講座11 第2版「こころとからだのしくみ」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
1	入浴・清潔保持のしくみ	入浴・清潔保持のしくみ			
2	入浴・清潔保持のしくみ	心身機能低下が食事に及ぼす影響・変化の気づきと対応			
3	睡眠に関連したしくみ	睡眠のしくみ			
4	睡眠に関連したしくみ	心身機能低下が食事に及ぼす影響・変化の気づきと対応			
5	死にゆくひとに関連したしくみ	「死」の捉え方			
6	死にゆくひとに関連したしくみ	「死」の価値観			
7	死にゆくひとに関連したしくみ	終末期(ターミナル期)			
8	死にゆくひとに関連したしくみ	「死」に対するこころの理解①			
9	死にゆくひとに関連したしくみ	「死」に対するこころの理解②			
10	死にゆくひとに関連したしくみ	終末期から危篤状態・死後のからだの理解			
11	死にゆくひとに関連したしくみ	終末期における医療職との連携			
12	まとめ	こころとからだのしくみⅠ・Ⅱの振り返り、まとめ			
13	まとめ	こころとからだのしくみⅠ・Ⅱの振り返り、まとめ			
14	まとめ	こころとからだのしくみⅠ・Ⅱの振り返り、まとめ			
15	単位認定試験・まとめ	試験・まとめ			
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠、授業態度、試験、レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
リハビリテーションⅠ	30	1	2年前期	講義・演習	菅野 秀二郎 (理学療法士として病院に14年勤務) 大高 拓也 (理学療法士として病院に15年勤務) 大竹 樹美 (言語聴覚士として施設等に21年勤務)
【授業の概要】					
身体のおしくみにおける筋骨格・末梢神経・及び言語・聴覚嚥下の構造、機能を理解し、リハビリテーションにおける介護福祉士の役割を認識することができる。					
【到達目標】					
①骨と関節の関係など、からだの動きのメカニズムを解剖生理の視点から理解することができる。 ②人が生活する上での基本的動作について、介護予防の観点から理解することができる。 ③言語・摂食嚥下に関わる解剖としくみを理解することができる。					
【テキスト・参考書】					
筋肉・関節・骨の動きとしくみ (マイナビ出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
1	運動器の構造と機能(基礎)	骨の構造と機能を学ぶ			
2	運動器の構造と機能(基礎)	骨格筋の構造と機能を学ぶ			
3	運動器の構造と機能(応用)	運動から考える筋骨格系の働き①			
4	運動器の構造と機能(応用)	運動から考える筋骨格系の働き①			
5	運動器の構造と機能(応用)	筋骨格系に着目した動作分析			
6	姿勢と重心	臥位・座位・立位姿勢について			
7	姿勢と重心	良姿位・ポジショニングについて			
8	基本的な動作	基本動作 寝返り・起き上がりについて			
9	基本的な動作	基本動作 起き上がり・立ち上がり・歩行について①			
10	基本的な動作	基本動作 起き上がり・立ち上がり・歩行について②			
11	話す・聴く・食べるのしくみ	言語障害について			
12	話す・聴く・食べるのしくみ	聴覚障害について			
13	話す・聴く・食べるのしくみ	摂食・嚥下について①			
14	話す・聴く・食べるのしくみ	摂食・嚥下について②			
15	まとめ	単位認定試験・解説			
【評価方法】					
試験・提出物・出席・授業態度を総合的に評価する。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
リハビリテーションⅡ	30	1	2年前期	講義・演習	風岡 都 (理学療法士として介護施設等に26年勤務) 石井利幸 (作業療法士として介護施設に23勤務)
【授業の概要】					
リハビリテーションの視点から生活支援をおこなうことを理解すると共に、リハビリテーションの観点から「その人の能力に最も適した生活」を捉えるための学習とする。					
【到達目標】					
①「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」をリハビリテーションの観点から捉えることができる。 ②介護における安全やチームワーク等について理解することができる。					
【テキスト・参考書】					
配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
1	リハビリテーションの定義	リハビリテーションの歴史や理念の変遷			
2	リハビリテーションの定義	リハビリテーションの歴史や理念の変遷			
3	リハビリテーションに関わる専門職の特徴	生活行為の種類とそれぞれに応じたリハビリテーション			
4	リハビリテーションに関わる専門職の特徴	生活行為の種類とそれぞれに応じたリハビリテーション			
5	生活行為の向上のためのアセスメントの考え方	リハビリプログラムの立案の考え方			
6	生活行為の向上のためのアセスメントの考え方	リハビリプログラムの立案の考え方			
7	リハビリテーションに関する社会資源	自立支援のための用具の使用方法について			
8	リハビリテーションに関する社会資源	自立支援のための用具の使用方法について			
9	福祉用具の使用目的	何のためにこの道具が開発されたのかを学ぶ			
10	福祉用具の使用目的	何のためにこの道具が開発されたのかを学ぶ			
11	疾患別の特徴を理解し、リハビリテーション方法論を学ぶ	事例を用いて学ぶ			
12	疾患別の特徴を理解し、リハビリテーション方法論を学ぶ	事例を用いて学ぶ			
13	疾患別リハビリテーション方法論	リハビリテーション介護法 介助方法の実技			
14	疾患別リハビリテーション方法論	リハビリテーション介護法 介助方法の実技			
15	単位認定試験	試験・解説・まとめ			
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠・授業態度・試験・レポートによる評価					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
医療的ケアの基礎と理解	68	2	2年前期	講義・演習	吉田朋子 (看護師として医療機関に10年勤務)
【授業の概要】					
医療的ケアの内容について理解し、介護福祉士が喀痰吸引等の医行為の一部を業として行うことへ制度やその変遷を学ぶ。医療的ケア実施の基礎について習得し喀痰吸引・経管栄養についての基礎的知識と実施について習得できる					
【到達目標】					
①医療的ケアにおけるこれまでの背景と社会的ニーズ・制度について説明できる ②医療的ケアを実施するための安全な療養生活や清潔保持、感染予防について説明できる ③健康状態について把握し、バイタルサインの測定・リスクマネジメント・救急蘇生について理解し説明できる					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉養成講座15 第2版「医療的ケア」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
1	医療的ケア実施の基礎	医療的ケアとは			
2	医療的ケア実施の基礎	医療的ケアについて			
3	医療的ケア実施の基礎	喀痰吸引制度			
4	医療的ケア実施の基礎	その他の制度			
5	医療的ケア実施の基礎	安全な療養生活① 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施			
6	医療的ケア実施の基礎	安全な療養生活② リスクマネジメントの考え方と枠組み			
7	医療的ケア実施の基礎	安全な療養生活③ ヒヤリハット・アクシデント 演習			
8	医療的ケア実施の基礎	安全な療養生活④ 救急蘇生の手順とポイント			
9	医療的ケア実施の基礎	清潔保持と感染予防① 感染とは・標準予防策			
10	医療的ケア実施の基礎	清潔保持と感染予防② 標準予防策演習			
11	医療的ケア実施の基礎	清潔保持と感染予防③ 介護福祉職の感染予防			
12	医療的ケア実施の基礎	清潔保持と感染予防④ 消毒と滅菌			
13	医療的ケア実施の基礎	健康状態の把握①			
14	医療的ケア実施の基礎	健康状態の把握② 演習			
15	医療的ケア実施の基礎	試験・まとめ			
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠、授業態度、試験、レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
医療的ケアの基礎と理解	68	2	2年前期	講義・演習	吉田朋子 (看護師として医療機関に10年勤務)
【授業の概要】					
医療的ケアの内容について理解し、介護福祉士が喀痰吸引等の医行為の一部を業として行うことへ制度やその変遷を学ぶ。医療的ケア実施の基礎について習得し喀痰吸引・経管栄養についての基礎的知識と実施について習得できる。					
【到達目標】					
①呼吸についてのしくみが理解できるとともに、喀痰吸引に伴う行為について説明できる ②消化器についてのしくみが理解できるとともに、経管栄養に伴う行為について説明できる ③喀痰吸引・経管栄養についての実施手順を安全面も配慮して根拠をもって説明できる					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉養成講座15 第2版「医療的ケア」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
16	喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順)	呼吸のしくみとはたらき			
17	喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順)	いつもと違う呼吸状態 喀痰吸引とは			
18	喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順)	人工呼吸器と吸引			
19	喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順)	子どもの吸引について・吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意			
20	喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順)	呼吸器系の感染と予防/ 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認 急変・事故発生時の対応と事前対策			
21	喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順)	実施手順①喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持			
22	喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順)	実施手順②吸引の技術と留意点			
23	喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順)	実施手順③喀痰吸引に伴うケア			
24	喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順)	実施手順④報告及び記録			
25	経管栄養 (基礎的知識・実施手順)	消化器のしくみとはたらき			
26	経管栄養 (基礎的知識・実施手順)	消化・吸収とよくある消化器の症状			
27	経管栄養 (基礎的知識・実施手順)	経管栄養とは・注入する内容に関する知識			
28	経管栄養 (基礎的知識・実施手順)	子どもの経管栄養について・経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意			
29	経管栄養 (基礎的知識・実施手順)	経管栄養に関係する感染と予防・経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認、急変、事故発生時の対応と事前対策			
30	経管栄養 (基礎的知識・実施手順)	実施手順①経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持			
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠、授業態度、試験、レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
喀痰吸引・経管栄養演習	30	1	2年後期	講義・演習	吉田朋子 (看護師として医療機関に10年勤務)
【授業の概要】					
医療職の連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。シュミレーターを用いて、「喀痰吸引」「経管栄養」「救急蘇生」の各演習において、ケア実施の一連の流れを習得する。					
【到達目標】					
①喀痰吸引（口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管内カニューレ内部）を5回以上実施し合格できる ②経管栄養（胃ろうまたは腸ろう・経鼻）5回以上実施し合格できる ③救命蘇生法を学びシュミレーターを使い正しく実施できる					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉養成講座15 第2版「医療的ケア」（中央法規出版） 配布資料（実施手順）					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			
1	喀痰吸引・経管栄養手順	演習方法の説明 喀痰吸引、経管栄養の実施手順確認			
2	喀痰吸引・経管栄養演習	喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）の実践 経管栄養（胃ろう・経鼻）の実践 1人：各5回以上 合格できるまで			
3	喀痰吸引・経管栄養演習				
4	喀痰吸引・経管栄養演習				
5	喀痰吸引・経管栄養演習				
6	喀痰吸引・経管栄養演習				
7	喀痰吸引・経管栄養演習				
8	喀痰吸引・経管栄養演習				
9	喀痰吸引・経管栄養演習				
10	喀痰吸引・経管栄養演習				
11	喀痰吸引・経管栄養演習				
12	喀痰吸引・経管栄養演習				
13	喀痰吸引・経管栄養演習				
14	救急蘇生法の実際				
15	救急蘇生法の実際				
【評価方法】					
実技試験（厚生労働省通知「喀痰吸引等研修実施要項」により項目ごとに評価）					
【そ+B1:H29の他】必要物品：喀痰吸引、経管栄養で使用する器具・器材・レサシアンとAED など					